ドイツの学術図書館における学習空間に関する実態調査

東京外国語大学 石山 夕記

問題意識と目的

- 大学ごとの学習スタイルの違い
- ドイツの図書館の特徴
- →静かに集中して勉強するスペースが充実?
- →調査例が少ない

現地で学習空間や利用者の 反応について、直接話を聞いて 来たい!

研修の概要

期間:11月16日~23日

方法:インタビュー及び訪問調査(7館)

訪問先:

- ・フンボルト大学図書館
- ザクセン州立&ドレスデン大学図書館
- •チューリンゲン州立&大学図書館
- ・ライプチヒ大学図書館
- ・ベルリン州立図書館(ウンターリンデン館)
- ・ベルリン州立図書館(ポツダム館)
- •ベルリン自由大学図書館



学習空間の特徴

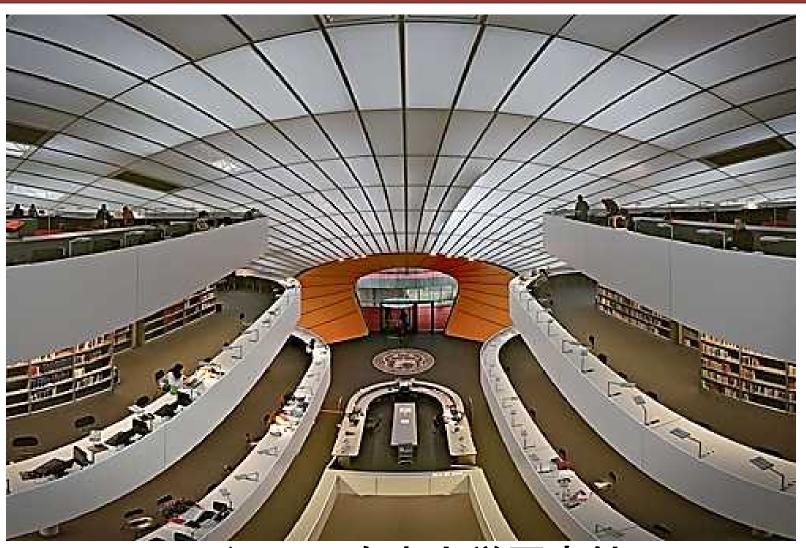


空間の共有



フンボルト大学図書館

空間の共有



ベルリン自由大学図書館

静寂な空間

- アクティブラーニング スペースは設置なし
- 「そんなスペースうちの 学生には必要ない!」

静寂な空間

ベルリン自由 大学図書館



空間の演出



ベルリン自由大学図書館

空間の演出



学生の学習行動とその対応



まとめ

各図書館の利用者の 学習行動に基づいた 学習環境作りを 追求していく姿勢

ありがとうございました

国立大学図書館協会の皆様 事務局の皆様 調査にご協力いただきました 関係者の皆様 職場の皆様

御礼申し上げます。

